

22年度合同関東部会

初の「学会フォーラム」開催

日本リスクマネジメント学会 SRM学会

日本リスクマネジメント学会(上田和勇理事長)とソーシャル・リスクマネジメント(SRM)学会(戸出正夫会長)は12月10日、専修大学神田校舎(東京都千代田区)で22年度の関東部会を合同で開催した。新型コロナウイルス第8波の蔓延中だったが、当日は十分な感染対策をとった上で2年ぶりの対面開催とし、出席者はオンラインでの参加を含めると70人を超える盛会となった。後半では、初めての試みとして、上田理事長(専修大学名誉教授)を司会者(問題提起者)として「学会フォーラム」を開催した。



浅津氏



亀井氏



上田氏



江尻氏



松木氏



梅澤氏



小林氏

冒頭、亀井弘明氏(SRM副理事長・事務局)の総合司会の下、上田理事長の開会の辞に続き、浅津光孝氏(SRM常務理事)と江尻行男氏(東北福祉大学名誉教授)の2氏が個別論題に

ウェルビーイングテーマに問題提起

「冒頭、亀井弘明氏(SRM副理事長・事務局)の総合司会の下、上田理事長の開会の辞に続き、浅津光孝氏(SRM常務理事)と江尻行男氏(東北福祉大学名誉教授)の2氏が個別論題に

性(規模)の観点から、いわば専用の自販機としての「コロナ感染対応型自販機」について分析した。すなわち、①抗ウイルス対応自販機としては選択ボタンや取り出し口などに抗ウイルス剤を塗布した自販機の設置②コロナ感染防止商品自販機

断から、「誰一人取り残されたい」という社会的な実現に必要とされ、社会の中に自分の居場所があることと、この三つが満たされている状態だと説明し、講演者それぞれにこれら3点から見た論題との関わりについての問題提起を行った。

「(社員とその利害関係者との関係性で、他人から取り組んでいる。その一例として「GAVIEWクチンアライアンス」を紹介した。そして、NECは予防接種のための世界同盟である前出「GAVIEWクチンアライアンス」と英国企業「シムフ

その後、小林守氏(専修大学商学部教授)が加わり、4氏のパネル・ディスカッションが行われた。司会者の上田氏は幸福経営の意義について詳しく論述し、小林氏もそれに同調、講演者の松本氏、梅澤氏はさらに補足を行った後、質疑応答に入り、熱のこもったパネルを終了した。次いで戸出正夫氏(SRM学会会長)がRM・SRM学会の充実と会員諸氏の一層の活躍を祈り閉会の辞を述べ、本年度の合同関東部会を終了した。

との競合の激化。だとの見解を示した。自販機の主力商品は、コロナ禍の下にあって、従来の清涼飲料水を中心とするいわば飲料自販機から、食品自販機が増加してきたとし、冷凍食品自販機が一躍注目されてきたと分析した。本来、冷凍食品は大手スーパーなどがこの分野に参入してきており、市場を牽引しているが、冷凍自販機は自販機が本来持つ非接触性、利便性などを強みに、戦略的には小さな店舗の分散化であり、また、同時に1カ所に集積化する形態が見られるとし、どこに設置したら顧客獲得できるかの検討が重要だと強調した。その上で、標的顧客(ターゲット)の特性

リンツ社」との協働により、世界初のワクチン普及を目的とする1〜5歳の幼児指紋認証の実用化の活動を開始した。これにより公的な登録を保有していない幼児の本人確認が可能となり、ワクチンの公平な配布と接種記録の管理に貢献できるとしている。